

家政系大学および短期大学における被服系科目の分析

岐阜市立女短大 ○山田令子 林 豊子 愛知淑徳短大 竹下弓子

東海学園女短大 辻 啓子

目的 現在、我々を取り巻く社会、生活環境の変化は急速に進行している。それに伴い、あらゆる方面から大学のあり方が問われ、新しい時代、社会、生活にふさわしい学科の設置が望まれている。家庭生活に基盤を置く家政系の学科は、時代の流れに対応し、種々の改革を重ねながら今日まできたが、さらに魅力ある大学を目指し、学科の名称やカリキュラムを変更する大学が増加している。そこで、家政系大学、短期大学の実態を知る目的で、アンケート調査を行い、カリキュラムの内容を分析した。

方法 ①調査対象：全国の家政系大学、短期大学 ②調査時期：平成5年6月下旬～7月上旬 ③調査方法：アンケート用紙郵送、学生便覧送付の依頼 ④集計方法 アンケートの単純集計、カリキュラムの分析

結果 ①現在のカリキュラムは、平成2年から5年にかけて構築されたものが多い。改定の内容は大幅または科目・単位数の見直しが多い。 ②カリキュラムにおける被服系科目の割合は、四大では家政系は20%以下、服飾系は60～80%である。短大では、家政学科、生活科学科、生活学科は10～30%であり、服飾系の学科は40～50%である。 ③被服科目の分野別出現傾向の特徴は、四大では、家政・人間の学科は意匠・美学の分野が少なく、被服・服装の学科は被服文化の分野が、環境学科は衛生・機構の分野が多い。短大は生活科学科が他の学科と異なり、衛生・機構・材料加工の分野が多い。